



砂をふるい機にかけた



電動ミニショベルに試乗

建設未来協 保育園で「砂場クリーン作戦」



建設フェスタでも人気だった配管ブロック組立



最後に櫻井会長が『いばらき建設図鑑』を贈呈した

県建設業協会建設未来協議会（櫻井俊一会長）は15日、水戸市のごんぐりの友保育園（手塚あつき園長）で「砂場クリーン作戦」を実施した。会員約30人が参加。2〜5歳の園児35人が、砂場の清掃や配管ブロック組み立て、昇降機による観覧を体験。建設業の役割や魅力を楽しく伝えた。

園児に魅力伝える

砂場クリーン作戦は、衛生的で遊びやすい砂場を再生し、安全に遊んでもらうことを目的に2014年度から開始し、今回で9回目。砂場の清掃では、あらかじめ会員が掘削した既存の砂を、園児たちがバケツでふるい機まで運び、異物を取り除いた。会員がその砂

を戻し、消毒液を散布して仕上げた。昨年の建設フェスタで大好評だった配管ブロック組み立ては、園児たちが出口部分の配管を組み立てて、会員が既存の配管に結合。園児が片側からビー玉を投入し、出口から出てくるようすを確認するもの。途中で、配管は透明になってお

り、園児たちは夢中になってビー玉が流れていくようすを見ていた。

コマツ茨城が協力した昇降機や電動ミニショベルの搭乗体験も大人気で、園児たちは元気いっぱい楽しんでいった。

櫻井会長は「イベントを通してわれわれも一緒に楽しませてもらっている。こういう体験は一生に一度だと思うので、大人になっても覚えていてもらえたらうれしい」と話した。

高野弘康地域貢献活動委員長は「地域の方々とのつながりを大切にしながら、建設業の良さを伝えていきたい」と語った。

ごんぐりの友保育園の手塚園長は「重機を近くで見たり、触ったりすることはないので、とても貴重な体験でありがたい。子どもたちも喜んで」と感謝した。